

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：32618

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02466

研究課題名（和文）「社会に開かれた」幼児教育の日米比較実践史研究

研究課題名（英文）A Comparative Historical Study of Japanese and the North America Practices in Socially Open Early Childhood Education

研究代表者

野尻 美枝 (NOJIRI, Mie)

実践女子大学・生活科学部・准教授

研究者番号：60554110

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：近代日本のキリスト教主義幼稚園では、フレーベルの思想が最も実践的に表れている『母の歌と愛撫の歌』に基づいた保育実践を展開していた。同書は、元々は家庭における母親向けであったが、Susan Blowは幼稚園という集団向けに適用できるよう翻案している。20世紀前後の北米では、『母の歌と愛撫の歌』の勉強会や母親学校を設置して、幼稚園で繰り広げられる教育を家庭においても同様、同質を期待するようになる。これが「社会に開かれた」幼児教育の実現の具体的施策となり、「母の会」や「家庭訪問」等の保育者の積極的な家庭との連携、地域市民による幼稚園運営の理解や支援を受けた無償幼稚園の隆盛に繋がった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「社会に開かれた」幼児教育の検討には、保護者・地域・子ども（入園前・在園・卒園）が包括的に結びつきを感じられる近代日本キリスト教主義幼稚園の実践のような取り組みが有効であり、幼稚園が地域コミュニティへ積極的に働きかけることが有効であると考えられる。また、その中心には、保育者の活躍は不可欠であり、社会が保育者の専門性を再認識、再評価することも同時に必要であるといえるだろう。

研究成果の概要（英文）： Christian kindergartens in modern Japan developed childcare practices based on "Mother Play" the most practical expression of Froebel's ideas. In North America around the turn of the 20th century, the same qualities were expected in the home as in the kindergarten, with the establishment of "Mother Play" study groups and mothers' schools. This is the "openness to society" of infant education. This became a concrete measure to realize early childhood education that was "open to society," and led to the flourishing of free kindergartens with active cooperation with families by caregivers through "mothers' class," and "home visits," as well as understanding and support for kindergarten management by local citizens.

研究分野：幼児教育史

キーワード：幼児教育史 キリスト教主義幼稚園 アメリカ幼児教育 フレーベル主義 エリザベス・ハリソン

1. 研究開始当初の背景

本研究は「社会に開かれた」幼児教育の実現方策について、近代日本をはじめ同時代の北米幼児教育に焦点を当て、近代日本キリスト教保育の実践に対して教育的かつ歴史的視座による実証的な検討を通して、今日の幼児教育に対する方策の示唆を得ようと試みた研究である。

平成30年幼稚園教育要領における改訂の基本方針の中に、「社会に開かれた教育課程」の重視がある。この改訂を機に各園へ、社会に開かれた教育の実現のために必要な方策の探究、および創意工夫に基づいた具現が一任されることになった。さらに、文部科学省は教育要領が大綱的であることをふまえ、本実施のために何が必要かを具体的には明示せず、各園の特色や長年の教育実践、学術研究の蓄積を生かして、教育水準を確保することが重要であるとした。

ところで、日本の幼児教育は、地域社会、家庭、保育者間、国際社会等、多様な社会とのつながりの中に位置している。それらを学術研究の立場から歴史的にみると、同様の課題と対峙しながら類似課題を克服した近代日本のキリスト教保育実践をみつけることができる。

例えば、幼児教育の意義が十分に理解されていなかった当時、富山のキリスト教主義幼稚園では、階層や障害の有無を問うことなく、あらゆる子どもたちを受け入れている。また、保育時間外には、カナダ人宣教師が積極的に在園、卒園を問わず家庭訪問を実施し、子どもの成長を互いに伝えあうことを通して保護者との関係が築かれ、次第に家庭の悩みや相談にも応じている。当時の富山は、自然災害による流行病や乳幼児死亡率の高さが社会問題となっていた。そこで宣教師は、家庭に対して衛生指導をはじめ、栄養に関する情報の提供や助言を行った。こうして母親教育に力を注ぎ、料理や洋裁、子育てに関する教育上の連携を重視した母の会を立ち上げている。さらには、卒園児を対象とした同窓会を組織し、ヒューマンズムに基づき、誰にでも常に開かれた居場所づくりを幼児教育の延長線上にとらえ、実践したのである。このようにキリスト教保育は、公立幼稚園の行政主導による発展とは異なり、実践者の創意工夫に拠るところが大きい。理解や支持を得られるまでの受容過程、家庭との連携、外国人である宣教師と日本人保姆の連携、日本人保姆同士の協調、北米幼児教育との関係や職能団体の組織化、独自文化の構築に至るまで、キリスト教保育は、幼児教育をとりまくあらゆる「社会」に向けた取り組みを複合的に検証することを可能にしている。しかし、これら実践を対象とした学術研究がない。

キリスト教保育の先行研究は、宣教師とフレーベル主義について研究した酒井玲子(1998)、多様な宣教師の活躍をまとめた小林恵子(2003)、函館の幼稚園の園舎に着目した永井理恵子(2011)、保姆養成研究では永井優美(2016)と、幼児教育史研究全体を見渡してもその数は極めて少ない。また、具体的な教育実践、その変容過程、社会との関係構築に関しても、ほとんど検証されてこなかった。一方、キリスト教保育と深い関わりのある北米幼児教育史の研究は、Nina C. Vandewalker(1923)、Michael Steven Shapiro(1983)、国内では津守真(1959)、藤武(1985)、丸尾譲(1988)、上野辰美(1995)、橋川喜美代(2003)らによってその変遷が明らかになっている。いずれも実践研究にはいたらず、アメリカに特化した幼稚園の発展、制度、教育思想史的研究に基づいていることが特徴である。キリスト教保育と北米幼児教育の関係性を実証するためには、日本の幼稚園発展にカナダ人も尽力した例が数多くあることから、カナダの幼児教育事情についてもとらえる必要があると考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「社会に開かれた」幼児教育の実現方策について、日米カナダに焦点を当て、これを比較教育実践史的視座からとらえることである。特に近代日本のキリスト教主義幼稚園に着目し、その具体的実践の検証を通して、新しい時代に向けた幼児教育の今日的実現方策への手がかりを明示することを目標とした。

日本のキリスト教主義幼稚園は、北米における教育経験を有した女性が志願した後に神学教育を受けて来日したことに始まる。すなわち、伝えられた教育手法は、元々は北米公教育の幼児教育カリキュラムであった。当時の北米は、新教育運動等の影響を受け、実践の変容を経験している。そのような激動の時代の中、幼児教育の意義やその効果、外国事情を知るよしもなかった日本の社会は、幼児教育をどのように受容し、発展したのであろうか。

日本のキリスト教保育の発展に寄与した存在の一つに Japan Kindergarten Union(以下、JKU)がある。本組織は1906(明治39)年、教派に関係なく在日宣教師間が話し合い、連携を図ること、そして幼児教育に関する国内外の情報を共有すること等を目的に創設された職能団体である。JKUは、アメリカの International Kindergarten Union(以下、IKU)に加盟しており、当時のキリスト教保育は海外にも強い関心を示し、その交流に大変意欲的であったことが窺える。以上のことから本研究では、1)当時の北米幼児教育の実態を把握し、2)教育的見地からキリスト教保育が日本の多様な社会(地域、家庭、保姆、国際)へどのように開かれ、3)どのようにその時代、地域に適した実践へと工夫されていたのかをとらえ、4)比較研究を通して、日本の特質を歴史的かつ実証的に明らかにする。

3. 研究の方法

研究の方法は、次のとおりである。

(1) 北米における幼稚園運動から新教育運動に向けた幼児教育の実態把握

幼稚園運動とフィラデルフィア万博

宣教師が幼児教育を学んだ時期を鑑み、アメリカ、カナダにおける幼稚園運動および幼稚園改造運動期の保育実践やその特徴を知る手がかりとして、それらの情報が数多く集約されたフィラデルフィア万博の関連資料が有効であると考え、議会図書館等のアーカイブ資料を活用して史料調査を実施する。また、復刻、再販された当時の出版物も積極的に解説し、アメリカ幼児教育史を概括する。

新教育運動に伴う各派の特徴理解

アメリカの新教育運動に関する各派の特徴を具体的に抽出すべく、Susan E. Blow, Patty Smith Hill, Elizabeth Harrison に関する資料や書籍、さらには Shapiro らアメリカ幼児教育史の研究者による先行研究を国内外より収集し、各派の特徴を丁寧に読み解く。その過程において、北米におけるキリスト教(主義)保育の通念を明らかにする。また、各派の理念に基づいた保育実践を示唆した資料については、Kindergarten Review, Kindergarten Magazine 等を参照したり、コロンビア大学ティーチャーズカレッジの図書館(ニューヨーク)、アメリカ連邦議会図書館(ワシントン D.C.) から収集したりする。コロンビア大学では、Blow と Hill が同時期に学生にむけた講義を複数回行っており、その講義記録も残されている。北米幼児教育関連資料については、復刻版ジャーナル合本の入手も積極的に行う。

宣教師活動とカナダ幼児教育史の検討

在日宣教師による教育開発の概要を知ることのできる報告書や書簡、派遣前の宣教師の個人記録等、その人物像を知る手がかりとなりうる資料の収集を国内の関連学校法人事務局をはじめとするキリスト教関係機関より行う。さらに、カナダ研究において東洋英和女学院の創設に寄与したカナダ・メソジスト婦人伝道会社(Woman's Missionary Society of The Methodist Church, Canada) が、年次報告書を作成していることから、アーカイブ資料を複写して、解説を進める。

(2) 日本のキリスト教保育の社会的受容と取り組みの把握

キリスト教主義幼稚園5園を中心としたキリスト教保育の受容と実践変容の検証

教育水準の全国的な確保に対する検証の実施、および多様な教派に基づくキリスト教保育の属性に配慮し、本研究では遺愛(函館)、東洋英和女学院(東京)、平安女学院(京都)、関西学院(広島・神戸)、頌栄(神戸)の各幼稚園を主な調査の対象とする。これらの沿革誌や保育記録、実践等の関連資料と卒業記念誌、保姆養成時代の学生ノート等を収集し、当時の社会、家庭、保姆等の受容過程とそれらに関連した具体的実践について掌握する。

国際社会における取り組みの検証

1907年から1939年まで全文英文でまとめられたJKU年次報告書等から、キリスト教保育の動向を把握すると共に、Kindergarten Review や宣教師派遣団体に報告された日本の幼児教育レポート等より国際社会との関係構築、および当時の課題認識について把握する。さらに保姆留学生派遣を実施した東洋英和女学院の資料も精査する。

(3) 複合的な実証と考察

(1) および(2)の資料調査で得た知見を複合的に解釈し、実証的アプローチと比較研究、考察等によって本研究の目的および目標の達成を目指す。

4. 研究成果

本調査の結果、近代日本のキリスト教主義幼稚園では、伝統的なフレーベル主義教育、中でもとりわけフレーベルの思想が最も実践的に表れている『母の歌と愛撫の歌』に基づいた保育実践を展開していることがわかった。この特徴は、他の公立、私立幼稚園には類例を見つけることは難しく、キリスト教主義幼稚園における最も顕著な特長といえる。この実践は、同時代の北米幼児教育の影響を多分に受けたもので、宣教師や北米へ留学した日本人保姆らによって日本各地のキリスト教主義幼稚園へ伝播していったことが明らかとなった。

『母の歌と愛撫の歌』は、元々は家庭における母親の育児のありようについて示されたものであったが、Susan E. Blow はこれを翻案し、幼稚園という集団向けにも適用できるように保育者に示している。1900年代初期の北米では、この『母の歌と愛撫の歌』を母親向けに勉強会や母親学校を設置して、幼稚園で繰り広げられる教育を家庭においても同様、同質を期待するようになっていた。これが「社会に開かれた」幼児教育の実現の具体的施策となり、「母の会」や「家庭訪問」等の保育者の積極的な家庭との連携、地域市民による幼稚園運営の理解や支援を受けた無償幼稚園(Free Kindergarten)の隆盛に繋がった。

これに倣った明治・大正期の日本の保姆も積極的に「母の会」や「家庭訪問」を日本で実施している。当時の尋常小学校以上の教育機関では、まだ保護者会や家庭訪問はキリスト教主義幼稚

園ほど取り組みがなかった時代であるが、子どもの栄養・衛生指導や子ども服の裁縫（洋裁）なども指導にあたったという。また、ランバス女学校（現・関西学院大学）では、アメリカの Elizabeth Harrison が取り組んだ母親学科に通じる母親学校を開設していたことも明らかになった。同学校は、地域の医師や学者による母親のための教養、育児（保育）講座を単位化したもので、開校科目にはフレーベルの思想等にも触れることができた。

この他、キリスト教主義幼稚園では、卒園生の居場所作りにも尽力していた。この背景には小学校以上の宗教教育が困難になった社会背景があったが、伝道という目的以外にも幼稚園と卒後の子どもコミュニティの形成に一役買っており、子どもと幼稚園だけではなく保護者と園がつながり続けるという良好な関係性にあったことが函館や神戸の幼稚園の記録に残されていた。

以上のことから、「社会に開かれた」幼児教育の検討には、保護者・地域・子ども（入園前・在園・卒園）が包括的に結びつきを感じられる近代日本キリスト教主義幼稚園の実践のような取り組みが有効であり、幼稚園が地域コミュニティへ積極的に働きかけることが有効であると考ええる。また、その中心には、保育者の活躍は不可欠であり、社会が保育者の専門性を再認識、再評価することも同時に必要であるといえるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 野尻美枝	4. 巻 35
2. 論文標題 大正期キリスト教主義保姆養成校における母親学校の取り組み：ランバス女学院における母親学校を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 上智教育学研究	6. 最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 野尻美枝	4. 巻 56
2. 論文標題 明治・大正期のキリスト教主義幼稚園における保守進歩派エリザベス・ハリソンの影響：頌栄幼稚園を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 上智大学教育学論集	6. 最初と最後の頁 91-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 野尻 美枝	4. 巻 15
2. 論文標題 19世紀後期～20世紀初頭のアメリカにおける保守進歩派エリザベス・ハリソンの幼児教育とその意義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 幼児教育史研究	6. 最初と最後の頁 1～14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20658/youjikyokushi.15.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 野尻美枝	4. 巻 58(2・3)
2. 論文標題 20世紀初期の日本における恩物積木の実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保育学研究	6. 最初と最後の頁 167-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20617/reccej.58.2-3_19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 野尻美枝	4. 巻 第28号
2. 論文標題 アメリカにおけるフレーベル主義初期受容とキリスト教の関係 - 1876年フィラデルフィア博にて賞賛されたエミリー・コーとスーザン・プロウに着目して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 キリスト教教育論集	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 野尻美枝
2. 発表標題 大正期キリスト教主義幼稚園の保育カリキュラム 上田保姆伝習所伝習生のプログラムノートを手がかりに
3. 学会等名 日本保育学会 第75回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野尻美枝
2. 発表標題 大正期における平安幼稚園の保育実践 - 大正 12 年の保育日誌を手がかりに -
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野尻美枝
2. 発表標題 明治・大正期のキリスト教主義幼稚園における保守進歩派ハリソンの影響
3. 学会等名 日本ペスタロッチー・フレーベル学会第 38 回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野尻美枝
2. 発表標題 19世紀シカゴにおける無償幼稚園の实践—家庭との連携に着目して—
3. 学会等名 日本保育学会 第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野尻美枝
2. 発表標題 日本における積木の保育実践史研究(2) - 明治末期日本女子大学附属豊明幼稚園の实践 -
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会 第30回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野尻 美枝
2. 発表標題 アメリカ幼児教育のフレーベル主義受容とキリスト教の関係について - 1876年フィラデルフィア万国博覧会に着目して -
3. 学会等名 日本キリスト教教育学会 第31回学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野尻 美枝
2. 発表標題 1850年-70年代の英・米における恩物積木の初期受容 - ロンゲおよびクラウス夫妻の書籍を手がかりに -
3. 学会等名 日本ベスタロッター・フレーベル学会 第37回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野尻 美枝
2. 発表標題 19世紀後期シカゴにおける幼稚園運動保守進歩派の形成過程
3. 学会等名 幼児教育史学会 第15回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------